

政務調査報告

①「スペースワールド跡地の活用は・産業革命遺産博物館」

一、跡地活用のコンセプトは「大人も子供も海外からの旅行者も学び、楽しめる施設」とし、何度でも来なくなるような場所として北九州の観光戦略の柱の一つとなるもの。

- ・製造業工場の視察(既に五〇社登録済、安川ロボット村など)
- ・ナイトクルーズ(海から見る洞海湾、関門の夜景など)
- ・産業革命遺産博物館
- ・別府温泉との連携(洞海湾↓門司港↓別府↓宮崎↓鹿児島↓大牟田↓長崎↓博多湾)

・北九州市と福岡市との連携(空港の連携・おもてなし文化の吸収)

・若松エネルギー基地見学など

二、産業・近代化遺産の展示(各ジャンルを掘り下げる)

①石炭の研究

筑豊炭田が製鉄と結びつき、日本の基幹産業が定着し、都市ができた。その時代の物語は「花と龍」「青春の門」「海賊と呼ばれた男」などに表されている。石炭とコークスと水素ガスなど、これからの科学技術につながる

る素材がある。

②製鉄の研究

製鉄技術は工夫の連続で、今日の技術を獲得した。シームレスや電磁鋼板、薄型鋼板など最先端の技術を保持している。工夫の過程を展示し、その素晴らしさを伝える。

③関連企業群

鉄を中心として、色々な企業が生まれた。技術の発展、企業の発展が都市をつくり人々の生活を築いた。

- ・黒崎播磨、ブランド企業(山九・高田工業、安川電機、九州工業大学、九州国際大学、自動車産業(トヨタ、日産、ダイハツ)ほか)

④今後の発展の構想

歴史を通して北九州がなぜ発展できたのか。なぜ低迷しているのか。どうすれば発展できるのか。子供たちに考えてもらい豊かな社会を創るために、教育の方向付けのヒントを得られるような、学びの場としたい。

・ここへ来れば企業・未来社会はどんな人材を求めているのかがわかるような内容の展示をする。

そして、この地から次の時代を創る人材を育てる。学校はそれらを見て教育に反映させる。

・企画などを面白い発想の漫画家などにしてもらってはどうか。

物語り性を出し、わくわくするような、生きた人間を感じる展示。それが人を集め、人にヤル気を起こさせ、発展の原動力となる。

・物語は数多く必要である。産業遺産をテーマとすれば、そこに関わった人間のドラマが、次々と発掘できるはずだ。

技術革新、資金繰り、人間のドラマなど。新日鉄や協力会社から、創業時の芳賀家の土地譲渡の話から「花と龍」「青春の門」「海賊と呼ばれた男」など幅広いドラマがあるはず。この地域ばかりではなく、中央政界との関係や、近代においては中国やアジアへの展開など様々ではないか。

深堀のできるテーマであり、人間社会そのものである。 ※さまざまな話を劇作家に



伝え、ドラマとして構成してもらう。

・北九州を創った新日鉄こそが行う事業ではないか。

今日までスペースワールドは、市内外からの来客により、北九州への観光名所の一つとして、その役割を果たしてきた。

今日、産業近代化遺産がユネスコ世界遺産に指定されたり、外国クルーズ船が若松港に来航している事を考えれば、北九州で大いに楽しんでもらうことは、北九州経済活性化に資することになる。この用地は、今後も観光資源として残してもらいたい。

このように北九州市は、新日鉄を中心に製造業の街として発展を続けてきたが、アジア新興諸国の発展とともに、環境都市、次世代エネルギー都市として生き残りをかけて努力を続けている。さらに次なる飛躍の為に、サービスマスに磨きを掛け、観光に向けた充実が求められる。

一、高等学校や大学において、ホスピタリティ学科を設置する。企業との連携を図る。

二、観光商品を数多く用意し、海外旅行者に満足を与える。

三、観光に役立ち、近代化の

技術発展の過程を展示しつつ、北九州市の将来展望を示す。

②「福岡県の観光戦略」

一、目的

観光を重要な産業として位置づけ、地域の観光資源の魅力向上と、心温まるおもてなしにより、観光客の満足度を高め消費と雇用を生み出す。

二、背景

観光の経済規模と重要性
・観光産業は世界のGDPの9%、輸出額の6%
・外国人観光消費額は鉄鋼や自動車部品の輸出額に匹敵

・外国人8人分、国内宿泊25人分の観光消費額は定住人口一人当たり年間消費額と同じ

三、現状と課題

・世界遺産登録
・ものづくり産業の集積
・強い九州の一体感と九州観光推進機構の活動

四、施策

1 観光資源の魅力向上
・歴史を活かした観光資源：ストーリー性のある旅の提案
・食の魅力を活かした観光の推進：観光農園・酒造など

2 受入環境の充実
・産業観光の推進：自動車、ロボット、陶器など

・観光案内の充実
・多言語対応の充実
・移動しやすい交通基盤の整備：空港機能の強化

数値目標

	平成28年実績	平成31年目標
外国人入国者数	260万人	414万人
県内延べ宿泊数	1,612万人	1,984万人
観光消費額	9,620億円	12,407億円
旅行者満足度	76.8%	85.0%
再訪意向	53.6%	60.0%

社会情勢

・少子高齢化により国内観光市場の伸び悩み
・訪日外国人の増加
・日本文化や日本食が人気
・ITを活用した観光情報サービス出現

課題

・県内各地への周遊促進
・東アジア客が多く、欧米豪客が少ない事を解消
・ソフト、ハードの受け入れ環境の整備
・観光振興を担う人材の育成

福岡県観光の強み

・恵まれた交通アクセス
・人気はショッピング、グルメと歴史